

NEWSLETTER

四国英語教育学会

No. 43

Mar. 2019

〒780-8520 高知市曙町 2-5-1

高知大学教育学部 英語教育研究室内

四国英語教育学会発行

巻頭言

徳島県支部長 山森 直人

2017年3月に小学校・中学校の次期学習指導要領が、2018年3月には高等学校のそれが告示されました。今回の改訂では「主体的・対話的で深い学び」の実現という学校教育全般にわたる理念のもと、外国語教育については、小学校で外国語活動の開始時期が早期化されるとともに高学年に教科としての外国語が導入され、中学校では「授業は英語で行うことを基本とする」とされています。さらに高校では発信力を強化するための「論理・表現」が授業科目として新設され、特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、複数の段落から成る文章を書くことなど、より高度な言語活動が求められています。また、教員養成に関する改革も進められており、上記改革を実現できる、英語力と指導力を兼ね備えた教員の養成・研修のため、コア・カリキュラムが開発され、それに則って教員養成が行われるよう体制が整備されてきました。つまり、大学での講義・演習においても学習指導要領にもとづき指導できる人材の育成が期待されています。

このような学校英語教育の改革を背景に、私たちにはどのような研究が求められているのでしょうか。研究は社会に貢献すべきものであり、英語教育研究は英語教育現場に即貢献するものでなくてはならないという意見はごく自然な考えだと思います。学習指導要領の目標・内容に照らして、どのような指導法や教材を用いれば成果を得られるのか、もっと言うと、学習指導要領や教育現場の状況にあわせて、また、教育現場の問題・課題を解決するために役立つ指導法や教材を開発することは研究の重要な役割であるとする考えです。その一方で、研究とは学習指導要領の目標や内容からは独立したものであるという意見もあると思います。英語教育の普遍性、原理・原則、最先端を追究することが研究の役割で、その成果をもとに学習指導要領の目標・内容や学校英語教育の現状に対し常に警鐘を鳴らし続けること、否、そもそも研究において学習指導要領のことを考慮する必要はないとの考えもあるでしょう。私自身、教員養成大学において上記改革に求められる人材の育成に携わるなかで、また同時に、英語教育のさらなる発展を目指す研究に携わるなかで、どのような研究をすべきか、ここ数年考えを巡らせてきました。

英語教育研究に向き合う姿勢はそんなに単純・簡単に割り切れるものではないかもしれませんが。仮に上記2つの姿勢を想定した場合、みなさんはどちらの姿勢で研究を行っているのでしょうか。私はどちらの姿勢も正しいし間違っていないと思っています。が、これらの姿勢は同時に成り立たせることが難しいジレンマ状態にあるようにも思います。私個人的には、研究において、このジレンマに真摯に向き合う姿勢が必要なのではないかと思います。これら2つの姿勢を超えた、第3の姿勢を探りたいと考えています。

研究の第3の姿勢とは-学習指導要領にもとづく学校英語教育現場の状況に学びつつ、

英語教育の原理・原則を追究し、さらに最先端を創造する-理想的すぎるでしょうか。

学校英語教育が次期学習指導要領にもとづく教育へ移行していく中で、自分自身の研究にかける姿勢をしっかり確認したいと思っています。

2018(平成30)年度 四国英語教育学会 理事会 議事録

2018(平成30)年6月23日(土)、理事会が香川大学において開催され、下記の事項が審議並び報告された。

【理事会報告】

議題1 2018(平成30)年度 役員改選

- 【高知県】久武郁(高知県教育委員会高等学校課)が退任、【徳島県】那住公子(阿南市立阿南中学校)が退任、【愛媛県】清水裕士(愛媛県総合教育センター)、藤田克昌(今治南高等学校)、米田功(伊方町立三崎中学校)が新任、【香川県】齋藤嘉則(香川大学教職大学院)が新任、竹田忠弘(高松大学発達学部)が所属変更

議題2 2017(平成29)年度 会務・会計決算報告並びに会計監査報告

- 五百藏高浩会長より29年度の会務報告がなされ、了承された。つぎに、宮本祥子事務局会計担当より会計決算書の説明がなされ、そのあと、大村潔会計監査担当より適切に処理されている旨の会計監査報告があった。

《収入》

| | |
|------------------------|-----------|
| 前年度繰越金 | 923,983 |
| 会費振込 | 384,000 |
| 全国英語教育学会より(事務謝金、郵送費補助) | 51,400 |
| 全国英語教育学会より(フォーラム補助) | 50,000 |
| 紀要掲載料 | 75,608 |
| 雑収入 | 0 |
| 全国英語教育学会会費(預り金) | 108,000 |
| 合計 | 1,592,991 |

《支出》

| | |
|-------------------|-----------|
| 四国英語教育学会徳島研究大会補助金 | 50,000 |
| 印刷費 | 142,009 |
| 通信費 | 71,560 |
| 雑費 | 105,046 |
| 全国英語教育学会フォーラム補助 | 50,000 |
| 全国英語教育学会役員会出席補助 | 0 |
| 紀要査読料 | 48,000 |
| 紀要編集委員会出席補助 | 20,000 |
| 会計監査費 | 10,000 |
| 全国英語教育学会会費 | 106,864 |
| 四国・全国会費 過払い払い戻し | 2,000 |
| 予備費(次年度繰越金) | 987,512 |
| 合計 | 1,592,991 |

議題3 四国英語教育学会『紀要』掲載論文のインターネット上での公開(J-Stageでの公開)

- 池野修紀要編集委員長より、四国英語教育学会『紀要』に掲載されている論文(過去10年分およびこれからの掲載される論文)を、他学会の動向や情報発信の観点からJ-Stageで公開したいという提案があり、公開することについては了承された。ただ、細則の変更が必要であり、また、学会会員に対する配慮(サービス)という意味で発行以降1年間は非公開とすべきといった議論があり、細かな文言等を含めて、紀要編集委員会で議論し、その結果を事務局・理事会へ報告することとなった。

議題4 2018（平成30）年度 会務計画（案）・予算（案）

- はじめに、五百蔵会長より会務計画（案）の説明があり、了承された。つぎに宮本会計担当より予算（案）の説明があり、了承された。

《収入》

| | |
|--------------------------------|-----------|
| 前年度繰越金 | 987,512 |
| 会費振込 (@3,000×130 = 390,000) | 390,000 |
| 全国英語教育学会より事務謝金 | 43,334 |
| 全国英語教育学会よりフォーラム補助 | 50,000 |
| 紀要掲載料(38号@5,000×5名) | 25,000 |
| 雑収入(紀要販売@1,000×5冊) | 5,000 |
| 全国英語教育学会会費預り金 (@2,000×55名) | 110,000 |
| 合計 | 1,610,846 |

《支出》

| | |
|-----------------------------------------------|-----------|
| 四国英語教育学会香川研究大会補助金 | 50,000 |
| 印刷費 (紀要第38号, Newsletter No. 43, 等) | 200,000 |
| 通信費 | 80,000 |
| 雑費 (紀要関連諸経費, アルバイト謝金, 学会ウェブページドメイン料, 等) | 80,000 |
| 全国英語教育学会 フォーラム補助 | 50,000 |
| 全国英語教育学会 フォーラム参加補助費 | 100,000 |
| 全国英語教育学会役員会出席補助 1名分 | 28,500 |
| 紀要査読料 (38号:@2,000×5本×3名=30,000) | 30,000 |
| 紀要電子論文公開料 | 150,000 |
| 会計監査費(@5,000×2名分) | 10,000 |
| 全国英語教育学会会費 (@2,000×55名) | 110,000 |
| 予備費 | 722,346 |
| 合計 | 1,610,846 |

議題5 2019（平成31）年度 第31回四国英語教育学会愛媛研究大会

- 池野修愛媛県支部長より、6月22日(土)に愛媛大学教育学部で理事会および研究大会、6月23日(日)に紀要編集委員会を開催することの報告があり、了承された。

議題6 Newsletter No. 43 執筆分担

- 多良静也事務局長より Newsletter No. 43 の役割分担の説明があり、了承された。詳細は以下の通りである。

| | |
|------------|-----|
| 巻頭言 | 徳島 |
| 全国英語教育学会報告 | 高知 |
| 四国理事会・総会報告 | 事務局 |
| 四国大会報告 | 香川 |
| 四国次期大会案内 | 愛媛 |
| 全国大会案内 | 事務局 |
| 編集後記 | 事務局 |

(原稿〆切) 2019年2月22日(金)
(提出先) メールに添付して事務局へ

議題7 紀要編集委員会報告

- 池野紀要編集委員長より、4月上旬の仮申込み時点で投稿希望者が11名、〆切り時点で8名からの投稿があり、その後2名から辞退の連絡を受け、査読対象論文数は6件となったことの報告があり、了承された。

議題8 執筆要領の改訂（論文範疇の定義）

- 池野紀要編集委員長より、ARELEが「実践報告」を「実践論文」に名称変更したことや本学会ジャーナルの「実践」でも「新たな知」を提供している事実から、執筆要領の文言の修正、そして、新たな範疇名（「実践事例論文」）の提案がなされた。審議の結果、理事会では変更の方向性を認め、12月刊行予定の38号には影響がないことを確認し、詳細は紀要編集委員会で検討することとなった。また、追加議題として、紀要の表紙にある紀要名を「四国英語教育学会紀要」に変更したいという提案がなされ、了承された。

議題9 ARELE 編集委員・査読委員

- 前年度からの引き継ぎ議案であるARELE編集委員および査読委員の6名をどのように選出するかについて、多良事務局長より複数案が再度提案され、負担等を考慮し、学会会長および事務局担当県から1名、紀要編集委員会事務局担当県から1名、その他の県からは各2名、合計6名選出する案（A案）が採択された。

議題10 全国英語教育学会「課題研究フォーラム（2019&2020年度）」

- 五百蔵会長より、2019 & 2020年度の全国英語教育学会課題研究フォーラムの1つを本学会が担当することの説明がなされ、議論の結果、香川が担当することが了承された。

議題11 2019年度からの四国英語教育学会事務局、紀要編集委員会の担当

- 多良事務局長より、2019年度からの事務局担当、紀要編集委員会担当のローテーションについて説明があり、了承された。詳細は以下の通りである。
事務局：香川（2019～2022）、愛媛（2023～2026）、徳島（2027～2030）
紀要編集委員会：徳島（2020～2023）、高知（2024～2027）、香川（2028～2031）

議題12 その他

- 多良事務局長より、2019年度以降の全国英語教育学会における四国英語教育学会の役割分担についての報告があり、確認がなされた。具体的には、以下の内容である。
 - ・2019 & 2020年度：課題研究フォーラム（2年もの）（香川担当）
 - ・2021年度：授業研究フォーラム
 - ・2022年度：全国大会
 - ・2024 & 2025年度：課題研究フォーラム（2年もの）
- 総会の議題として以下を取り上げることとなった。
 1. 2018（平成30）年度 役員改選
 2. 2017（平成29）年度 会務・会計決算報告並びに会計監査報告
 3. 四国英語教育学会『紀要』掲載論文のインターネット上での公開（J-Stageでの公開）
 4. 2018（平成30）年度 会務・予算（案）
 5. 2019（平成31）年度 第31回研究大会
 6. 紀要編集委員会報告
 7. 2019年度からの四国英語教育学会事務局、紀要編集委員会の担当
 8. その他

【総会報告】

2018（平成30）年6月23日（土）、総会が香川大学において開催され、大西範英氏（観音寺市立豊浜中学校）を議長として選出して、下記の事項が審議並び報告された。

議題1 2018（平成30）年度 役員改選

- 【高知県】久武郁（高知県教育委員会高等学校課）が退任，【徳島県】那住公子（阿南市立阿南中学校）が退任，【愛媛県】清水裕士（愛媛県総合教育センター），藤田克昌（今治南高等学校），米田功（伊方町立三崎中学校）が新任，【香川県】齋藤嘉則（香川大学教職大学院）が新任，竹田忠弘（高松大学発達学部）が所属変更

議題2 2017（平成29）年度 会務・会計決算報告並びに会計監査報告

- 多良静也事務局長より29年度の会務報告がなされ，了承された。つぎに，宮本祥子事務局会計担当より会計決算書の説明がなされ，そのあと，大村潔会計監査担当より適切に処理されている旨の会計監査報告があった。

議題3 四国英語教育学会『紀要』掲載論文のインターネット上での公開（J-Stageでの公開）

- 池野修紀要編集委員長より，四国英語教育学会『紀要』に掲載されている論文（過去10年分およびこれからの掲載される論文）を，他学会の動向や情報発信の観点からJ-Stageで公開したいという提案があり，公開することについては了承された。ただ，細則の変更が必要であり，また，学会会員に対する配慮（サービス）という意味で発行以降1年間は非公開とすべきといった議論があり，細かな文言等を含めて，紀要編集委員会で議論し，その結果を事務局・理事会へ報告することとなった。

議題4 2018（平成30）年度 会務計画（案）・予算（案）

- 多良静也事務局長より会務計画（案）の説明があり，了承された。つぎに宮本会計担当より予算（案）の説明があり，了承された。

議題5 2019（平成31）年度 第31回四国英語教育学会愛媛研究大会

- 池野愛媛県支部長より，6月22日（土）に愛媛大学教育学部で理事会および研究大会，6月23日（日）に紀要編集委員会を開催することの報告があり，了承された。

議題6 紀要編集委員会報告

- 池野紀要編集委員長より，4月上旬の仮申し込み時点で投稿希望者が11名，〆切り時点で8名からの投稿があり，その後2名から辞退の連絡を受け，査読対象論文数は6件となったことの報告があり，了承された。

議題7 2019年度からの四国英語教育学会事務局，紀要編集委員会の担当

- 多良事務局長より，2019年度からの事務局担当，紀要編集委員会担当のローテーションについて説明があり，了承された。詳細は以下の通りである。
事務局：香川（2019～2022），愛媛（2023～2026），徳島（2027～2030）
紀要編集委員会：徳島（2020～2023），高知（2024～2027），香川（2028～2031）

議題8 その他

- 特になし

第44回 全国英語教育学会 京都研究大会 報告

標記研究大会が、2018（平成30年）年8月25日（土）～26日（日）、龍谷大学大宮キャンパスにおいて開催された。京都での研究大会は、30年ぶりの開催のようで、平成の時代に開催される最後の研究大会となった。また、2018（平成30年）年3月の高等学校学習指導要領の告示をもって、今後の学校英語教育の方向性の全体像が示されたことになり、全国英語教育学会としても、今後の英語教育改革にどのような貢献ができるか、伊東治己会長の言葉を借りれば、「存在意義が問われる」大会になると言えます。

汗ばむような暑い日が続いていましたが、京都研究大会実行委員会の配慮により、会場の準備、配置ともよく工夫され、屋外に暑さを避けることのできるスポットが準備されるなど、快適に過ごすことができました。2日間で、1,000名近くの参加者があったようで、多岐にわたる研究分野で、研究発表が実施され、熱心な討議が交わされました。また、課題研究フォーラム、授業研究フォーラム、ランチョン・セミナー、大学生・院生フォーラム、ポスター・セッションなど、数多くの多彩なセッションが開催されました。

大会の1つのハイライトとも言えるシンポジウムのテーマは「日本の英語教育の将来—新学習指導要領で何が変わるのか、何を变えるのか、何を变えないのか」でした。今大会は通常最終日の午後に開催されるシンポジウムを、午前中に開催するという新しい日程が試されました。遠方から来た参加者にとっては、ありがたい変更だと思われました。

シンポジウムでは、松沢伸二先生（新潟大学）をコーディネーターに、パネリストとして、佐藤裕子先生（船橋市立若松小学校）、吉田喜美子先生（吉野ヶ里町立三田川中学校）、宮崎貴弘先生（神戸市立葺合高等学校）が登壇されました。3名のパネリストは、小中高のそれぞれの校種で、素晴らしい授業実践をされ、高い評価をされてきた皆さんであり、それぞれの立場から、実践例を交えながら、教室の何を变えるのか、何を变えないのかについて、提案がありました。これからも、变えないこととして、子どもたちの心のあり様を基盤として、本当の意思の伝え合いを楽しむコミュニケーション重視の授業づくりという点で、パネリスト及びフロアーの皆さんとも合意ができたように感じましたが、何を变えるのかという点については、今後まだまだ議論が必要であると感じました。

（高知工科大学 長崎 政浩）

第30回 四国英語教育学会 香川研究大会 報告

平成30年6月23日(土)に、第30回四国英語教育学会香川研究大会が、香川大学法学部棟にて開催された。昨年の徳島研究大会と同様、午前中に定例の理事会が開かれ、午後より研究発表会が行われた。今大会の研究発表も昨年と同数の7件で、2つの会場に分かれて、発表および質疑応答が行われた。

研究発表のタイトルのみ紹介すると、「日本人高校生英語学習者が好む知覚系学習スタイルについて」、「互恵的教授によるテキスト内容理解の効果-アクティブ・ラーニングの視点から-」、「読み手を育てるアメリカの教室-外国語化における主体的・対話的で深い学びの実現を目指して-」、「日本人英語学習者の発話時の守護選択に関する実験的研究」「中学校英語授業 話すこと『やり取り』の指導の実際」、「中学校英語科 Retelling 活動の活用による『読むこと』の授業改善」、「ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりの効果-高等学校・英語教科における実践研究から-」と非常に多岐にわたる内容であった。それぞれ理論研究、実証研究、実践研究といった様々なアプローチで新指導要領のキーワードである、「主体的」、「対話的」、「深い学び」を実現しようとするもので、いずれも英語教育実践のための示唆に富んだ研究発表であった。

さて、研究大会が以前の週末の2日開催から、土曜日の1日開催になったのは3年前の愛媛研究大会からで、翌年の高知研究大会からシンポジウムを廃止して研究発表会のみの内容となっている。大会の準備にかかる大会事務局の負担は明らかに軽減されているが、出席者数は今回39名(うち29名が学会役員と発表者)で、前回の香川研究大会(平成25年)よりも12名減であった。すでに来年度の愛媛大会についてはスケジュールが確定しているが、今後もより多くの学会会員にとって参加しやすい(したいと思える)研究大会のあり方を継続的に模索していく必要があると感じている。

(香川県支部長 水野 康一)

全国英語教育学会 第45回弘前研究大会 案内

開催日：2019年8月17日(土)・18日(日)

会場：弘前大学文京町キャンパス

〒036-8560 青森県弘前市文京町1

<http://jaselehirosaki.sakura.ne.jp/JASELEHiroSaki2019/index.html>

日程：大会への参加や研究発表の申し込みに関わる詳細は2019年4月中旬頃に大会ホームページ(上掲URL)へ掲載される予定です。また、大会案内は新事務局である香川事務局より会員の皆様へ送付予定です。

第31回 四国英語教育学会愛媛研究大会 案内

第31回四国英語教育学会愛媛研究大会を下記の要領で開催いたします。多くの参加をお待ちしております。また、会員の皆様には、ぜひこの機会に日頃の発表をいただきますようお願い申し上げます。

期 日：2019年6月22日（土） 10:00－12:00 理事会
13:00－17:00 研究発表会・総会
18:00－20:00 懇親会

会 場：愛媛大学 教育学部
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3
https://www.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2016/02/johoku_1.pdf

参 加 費：会員無料・非会員1,000円 ただし、学生（学部生・大学院生）は500円

申 込 み：学会ホームページ<http://www.shikokueigo.org>の各フォームをダウンロード
いただき大会事務局あてメールにてお申し込みください。

①研究発表申し込み 締め切り：2019年4月26日（金）

「研究発表申込フォーム」にてお申し込みください。研究発表、実践報告は
いずれも発表時間20分、質疑応答10分です。

②発表要旨提出 締め切り：2019年5月24日（金）

「発表要旨投稿フォーム」の様式にしたがって作成してください。

③大会参加： 締め切り：2019年6月7日（金）

「大会参加フォーム」（懇親会参加およびお弁当の注文含む）にてお申し込み
ください。当日参加も可能ですが、資料等準備の都合上、なるべく事前の申
し込みをお願いします。懇親会およびお弁当は事前申し込みのみとさせてい
ただきます。

研究大会の最新情報は、学会ホームページ<http://www.shikokueigo.org>で
ご確認ください。なお、会員の皆様には、開催1ヶ月前頃に開催案内を郵送
いたします。

大会事務局

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3
愛媛大学教育学部 池野修研究室
第31回四国英語教育学会愛媛研究大会事務局
TEL:089-927-9512 E-mail:ikeno.osamu.mg@ehime-u.ac.jp

紀要編集委員会より

『四国英語教育学会紀要』第39号への投稿（「研究論文」、「実践論文」、「研究ノート」）を募集いたします。以下の事項をご確認の上、ご投稿をお願いいたします。

【仮申込】

『紀要』第39号への投稿を考えておられる方は、まず2019年3月31日（日）までに、紀要編集委員会事務局まで「**仮申込**」をしていただくようお願いいたします。

- ・「仮申込」の内容は、(1) 執筆者名、(2) 所属、(3) メールアドレス（共著の場合は代表者）、(4) 論文タイトル（仮）、(5) 投稿区分（研究論文、実践論文、研究ノート）とします。
- ・論文タイトルは原稿提出時に微修正していただいても結構ですが、論文が扱うテーマや内容の大幅な変更は避けて下さい。
- ・送付先は 四国英語教育学会紀要編集委員会事務局（shikokukiyo@gmail.com）です。
- ・「仮申込」に対して、1週間以内に受領確認のメールをお送りしますので、1週間経っても確認メールが届かない場合は、すみやかに紀要編集委員会委員長・池野までお問い合わせ下さい（ikeno.osamu.mg@ehime-u.ac.jp）。
- ・「仮申込」のない場合、提出される原稿は受理いたしません。

【原稿執筆&提出】

- (1) 『四国英語教育学会紀要』第38号の巻末にある執筆要領に従って執筆を行なって下さい。なお、四国英語教育学会「研究紀要」のページ（<http://www.shikokueigo.org/kiyo-1>）上にも関連情報があります。
 - (2) 執筆言語が母語でない場合は、母語話者によるチェックを受けて下さい。
 - (3) 原稿提出締め切りは2019年5月7日（火）（必着）です。
 - (4) 原稿提出に関する詳細な連絡は、仮申込のあった方にメールでさせていただきます。
- 『四国英語教育学会紀要』第39号への投稿をぜひご検討いただきますようお願いいたします。

四国英語教育学会紀要編集委員会事務局

愛媛大学教育学部 池野修研究室内
shikokukiyo@gmail.com

編集後記

時が経つのは早いものですね。1997年に大学院を修了し、高知大学へ着任したと同時に四国英語教育学会へ加入させていただきましたが、その時はまさか、私が事務局長を務めることになるとは夢にも思いませんでした。4年という長くて短かった事務局長としての仕事を無事終えることができましたのも会員の皆様からのたくさんのご支援があったからだと思っております。御礼申し上げます。

会長兼高知県支部長の五百藏高浩先生(高知県立大学)、そして、会計を担当してくださった宮本祥子先生(土佐リハビリテーションカレッジ)には、なんと御礼を申し上げてよいやら、感謝の言葉も見つかりません。ご多忙でお疲れのところ、私からの相談メールに対して迅速に、そして、的確にアドバイスをくださり、仕事がなかなか進まず落ち込んでいた時にはあたたかい言葉をかけてくださったことが何度もありました。また、事務局の仕事を効率よく進めることができましたのは、水野康一先生(徳島県支部長)、池野修先生(愛媛県支部長)、山森直人先生(徳島県支部長)が、それぞれの県をとりまとめて、道筋を作ってくくださったからこそ、心より感謝致しております。この4年間、人のつながりややさしさに包まれて仕事ができることは本当に幸せでした。

会員の皆様がこのニューズレターを読まれている頃には香川県の先生らとの事務局引き継ぎ作業も無事終了していることでしょう。香川に事務局が移転しましても、会員の皆様からのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(事務局長 多良 静也)